



2026年3月期 中間期決算 および事業計画説明会

2025年12月3日
株式会社 大阪ソーダ

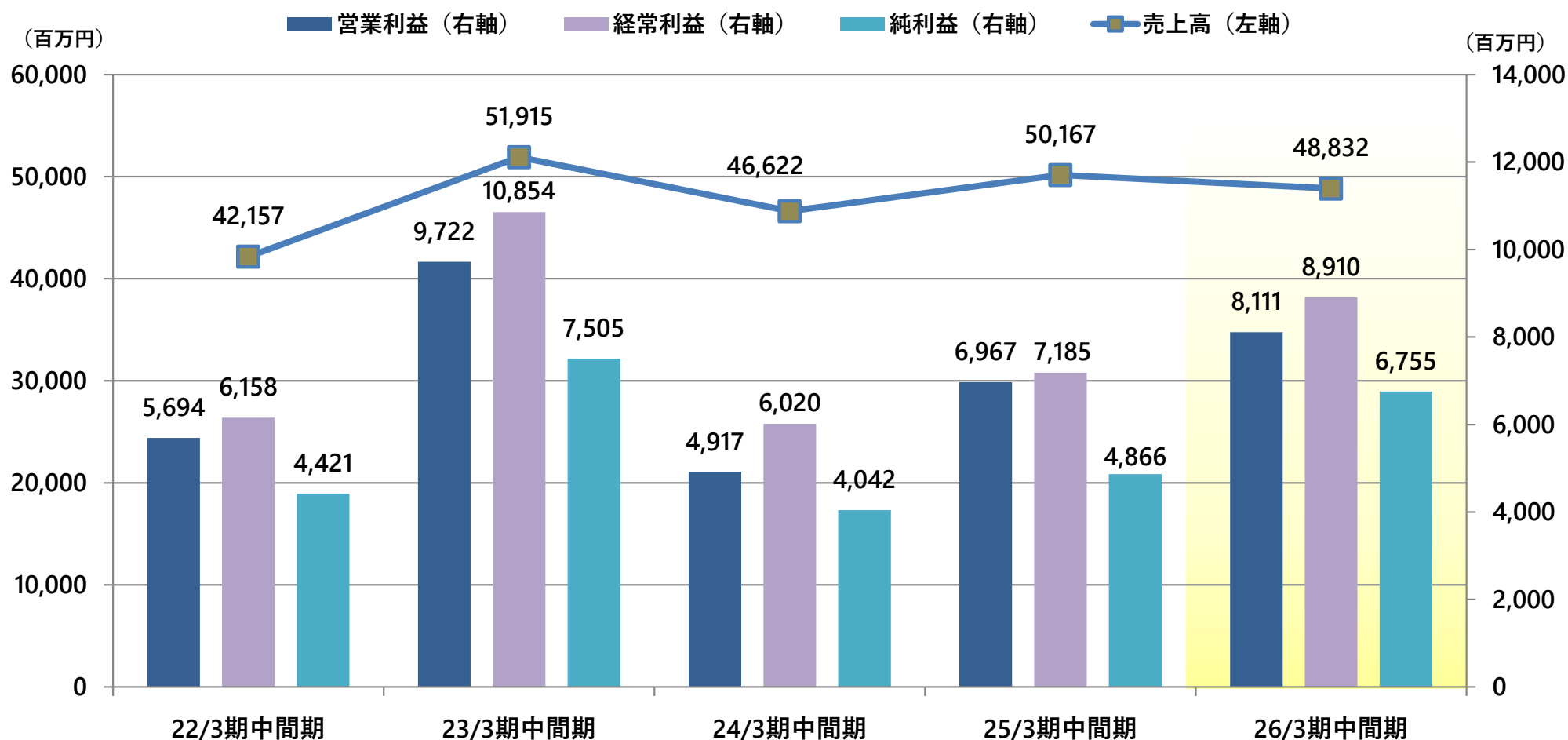


2026年3月期 中間期業績

業績推移（22/3期中間期～26/3期中間期）

- 26年3月期中間期は、前年同期比で減収増益で着地
- 各段階利益は、過去最高となった23年3月期中間期に次ぐ水準を達成
- なお、中間純利益については、特別利益として投資有価証券売却益を計上

売上高および営業利益、経常利益、中間純利益の推移



2026年3月期中間期 概況

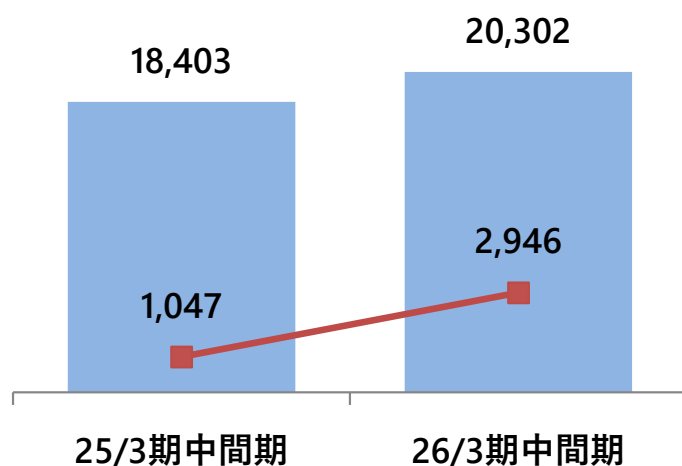
- 売上高は、機能化学品事業の一部製品における市況軟化等の影響を受け減収で着地
- 営業利益は、基礎化学品における生産トラブルの解消、原価低減の取り組み、市況の改善等により前年同期および期初計画を上回る

	25年3月期中間期		26年3月期中間期		増減		期初計画	達成率 (%)	計画差異
		構成比 (%)		構成比 (%)	金額	率(%)			
(百万円)									
売上高	50,167	—	48,832	—	▲1,335	▲2.7	50,200	97.3	▲1,368
営業利益	6,967	13.9	8,111	16.6	1,144	16.4	8,000	101.4	111
経常利益	7,185	14.3	8,910	18.2	1,725	24.0	8,500	104.8	410
中間純利益	4,866	9.7	6,755	13.8	1,889	38.8	5,700	118.5	1,055
1株当たり 中間純利益	38.36円	—	53.74円	—	—	—	—	—	—
海外売上高	19,512	38.9	18,833	38.6	▲679	▲3.5	—	—	—
前提条件	25年3月期中間期		26年3月期中間期						
U S \$ / 円	154円		147円						
ユ - ロ / 円	167円		167円						
ナフサ (円/KL)	79,000円		64,500円						

セグメント（基礎化学品）

- 基礎化学品全般では、原価低減の取り組みが大きく寄与
- クロールアルカリは、生産トラブルの解消による原単位の改善ならびに数量増が貢献
- エピクロルヒドリンは、市況の改善に加え、販売数量の増加が寄与

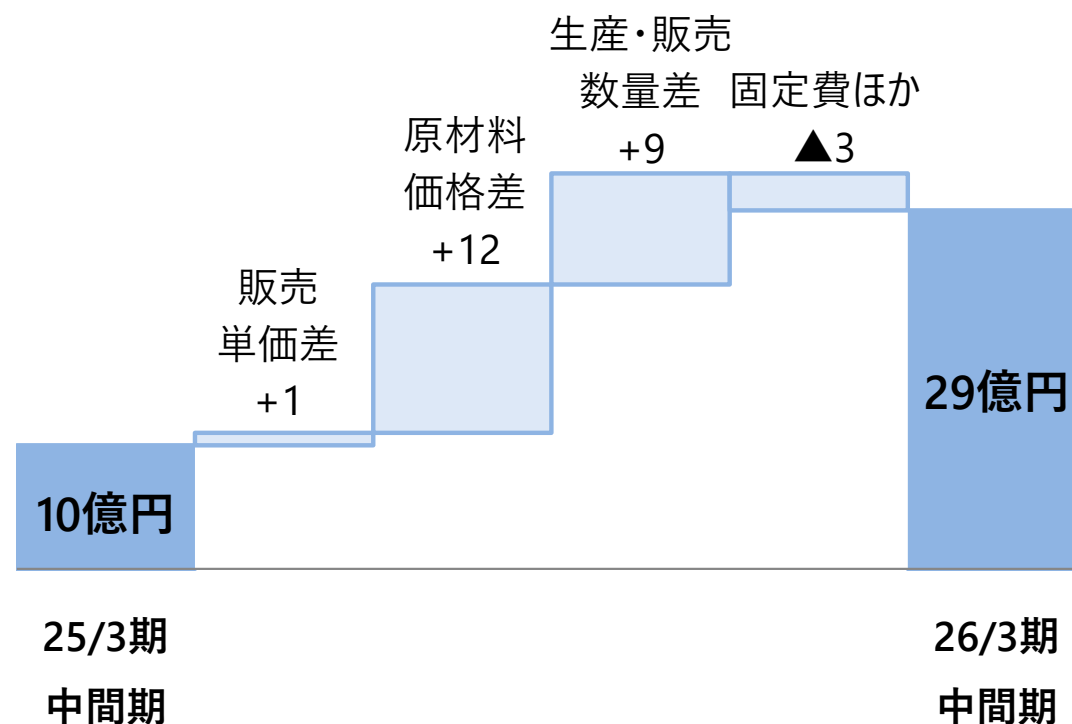
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前年同期比+19億円）

クロール・アルカリ	+1
エピクロルヒドリン	+18

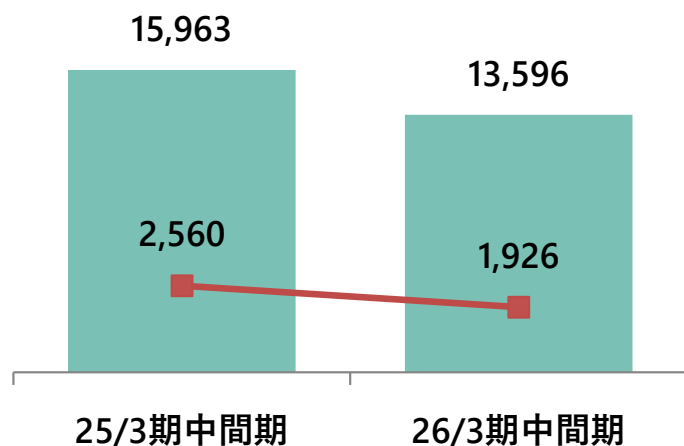
営業利益要因（億円）



セグメント（機能化学品）

- 合成ゴムは、アクリルゴムが中国・アジア向けを中心に堅調に推移、一方でエピクロルヒドリンゴムは欧州の自動車用途向けが低調
- 合成樹脂は、ダップモノマーの建材用途向けで競合品からの置き換え需要に加え、ノンフタレート型アリル樹脂の新規採用が増加
- アリルエーテル類は、中国市況の大幅下落に加え、欧州のシランカップリング剤向け需要が減少

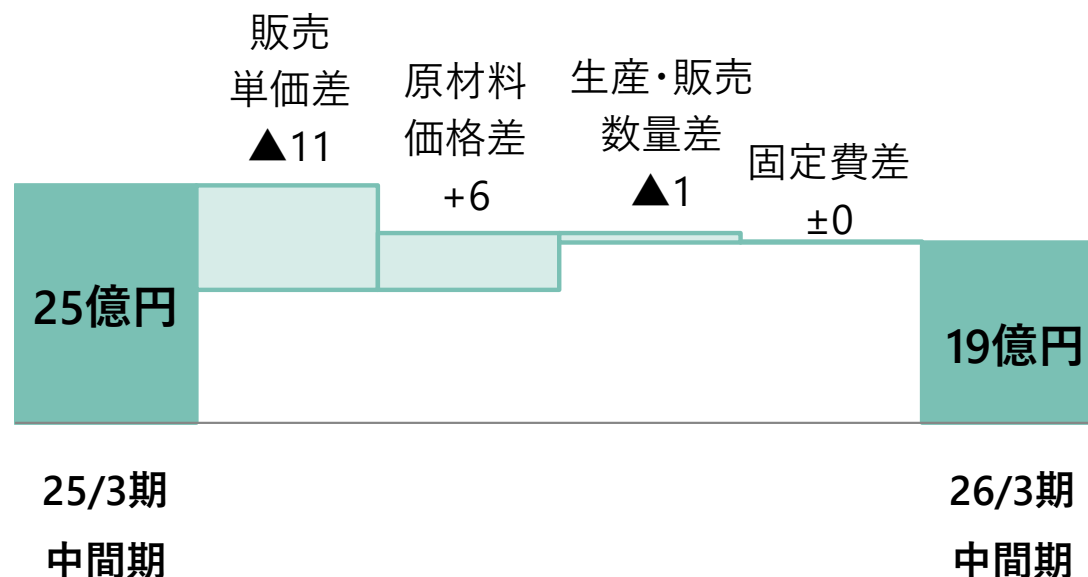
売上高 営業利益 （百万円）



売上高増減（前年同期比▲23億円）

合成ゴム・合成樹脂	▲2
アリルエーテル類	▲10
その他	▲11

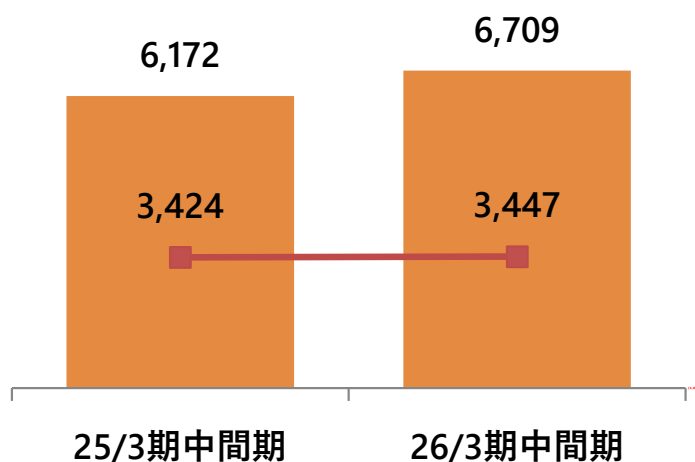
営業利益要因（億円）



セグメント（ヘルスケア）

- クロマトは、前期に引き続き糖尿病治療薬および肥満治療薬用途等の需要拡大を受け、シリカゲル事業が拡大、松山工場の償却費増加の影響を販売数量の拡大により吸収
- 医薬品原薬・中間体は、糖尿病合併症治療薬中間体等の販売減少の影響を受けた
- 尼崎工場シリカゲル2期増強工事は、当初計画より1年前倒しとなる25年9月末に完工

売上高 営業利益（百万円）

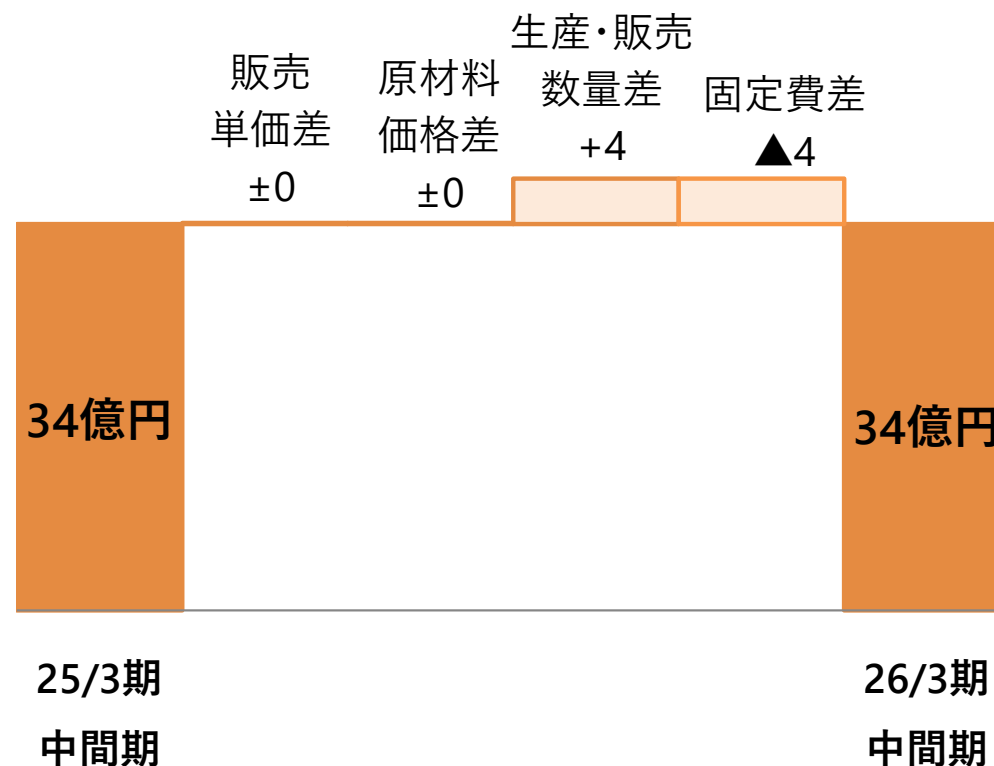


売上高増減（前年同期比+5億円）

クロマト*	+8
医薬品原薬・中間体	▲3

* 医薬品精製材料、カラム・装置等分析機器

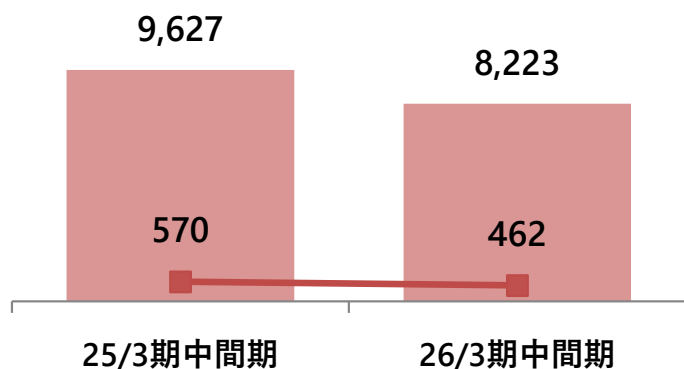
営業利益要因（億円）



セグメント（商社部門ほか）

- コンシューマープロダクツでは、生活用品の販売が好調に推移
- 特殊ポリマーでは、印刷関連商材の販売が低調に推移
- その他、主に無機薬品の販売が減少

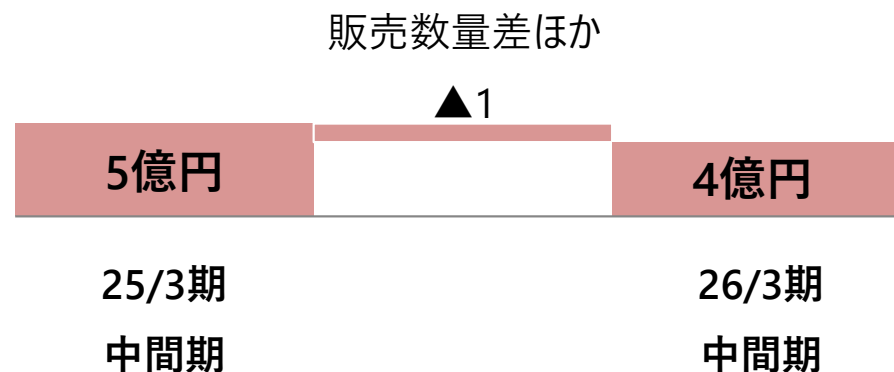
■ 売上高 ■ 営業利益
(百万円)



売上高増減（前年同期比▲14億円）

生活用品	+4
特殊ポリマー	▲3
建材	▲1
基礎化学製品ほか	▲14

営業利益要因（億円）



貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

- 安定的な財務基盤が評価され、株式会社格付投資情報センター（R&I）による格付けがA-からAへ、1段階引き上げ
- 本年8月に自己株式（10億円）を取得。これにともない財務活動による支出が前年同期比で増加

	(百万円)	25/3期2Q末	25/3期末	26/3期2Q末	25/3期末比
総資産		153,061	153,935	159,437	5,502
純資産		112,739	115,596	121,618	6,022
自己資本比率		73.7%	75.1%	76.3%	1.2%
有利子負債		7,656	7,635	7,172	▲463

	(百万円)	25/3期2Q	25/3期	26/3期2Q	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー		10,117	17,049	7,988	▲2,129
投資活動によるキャッシュ・フロー		▲4,483	▲8,135	▲2,733	1,750
財務活動によるキャッシュ・フロー		▲1,226	▲4,221	▲2,724	▲1,498
現金および現金同等物		42,963	43,314	45,587	2,624



2026年3月期 事業計画

2026年3月期 事業計画

- 引き続き基礎化学品事業の市況改善に加え、ヘルスケア事業の伸長による利益拡大を見込む
- そのため、過去最高益の更新を計画していた期初の通期業績予想をさらに上方修正

(百万円)	25年3月期		26年3月期計画		増減	
		構成比(%)		構成比(%)	金額	率(%)
売上高	96,434	—	102,000	—	5,566	105.8
営業利益	13,246	13.7	17,300	17.0	4,054	130.6
経常利益	14,154	14.7	18,700	18.3	4,546	132.1
当期純利益	10,332	10.7	13,500	13.2	3,168	130.7
1株当たり 当期純利益	81.54円	—	108.28円	—	—	—
海外売上高	36,184	37.5	39,300	38.5	3,116	108.6

前提条件	25年3月期	26年3月期計画
U S \$ / 円	152円	145円
ユ - ロ / 円	163円	160円
ナフサ (円 / KL)	75,800円	64,000円

セグメント別売上高・営業利益計画

- 基礎化学品は、エピクロルヒドリンの市況改善と原価低減の取り組みにより大幅増益を見込む
- 機能化学品は、アリルエーテル類の市況回復が期初計画より遅れるものの、合成ゴム等の拡販により前年並みを維持する見込み
- ヘルスケアは、引き続きシリカゲルの需要増に加え、26年年初から松山・尼崎での増産効果を見込む

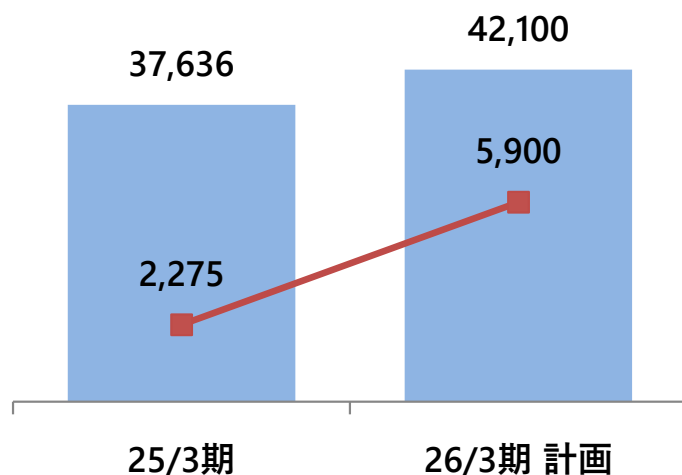
		25年3月期			26年3月期計画			増減		
(百万円)		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	基礎化学品	18,403	19,233	37,636	20,302	21,798	42,100	1,899	2,565	4,464
	機能化学品	15,963	13,134	29,097	13,596	15,604	29,200	▲2,367	2,470	103
	ヘルスケア	6,172	7,512	13,684	6,709	8,291	15,000	537	779	1,316
	商社部門ほか	9,627	6,388	16,015	8,223	7,477	15,700	▲1,404	1,089	▲315
	合計	50,167	46,267	96,434	48,832	53,168	102,000	▲1,335	6,901	5,566
営業利益	基礎化学品	1,047	1,228	2,275	2,946	2,954	5,900	1,899	1,726	3,625
	機能化学品	2,560	1,767	4,327	1,926	2,424	4,350	▲634	657	23
	ヘルスケア	3,424	3,607	7,031	3,447	4,353	7,800	23	746	769
	商社部門ほか	570	334	904	462	288	750	▲108	▲46	▲154
	全社・消去	▲635	▲658	▲1,293	▲671	▲829	▲1,500	▲36	▲171	▲207
	合計	6,967	6,278	13,246	8,111	9,189	17,300	1,144	2,911	4,054

セグメント（基礎化学品）

現有能力でのフル生産・フル販売の実現に向けて、

- クロール・アルカリ製品は、安全・安定稼働の継続と地域密着型営業の強化を図る
- エピクロルヒドリンでは、特に海外営業を強化し、シェア拡大を目指す

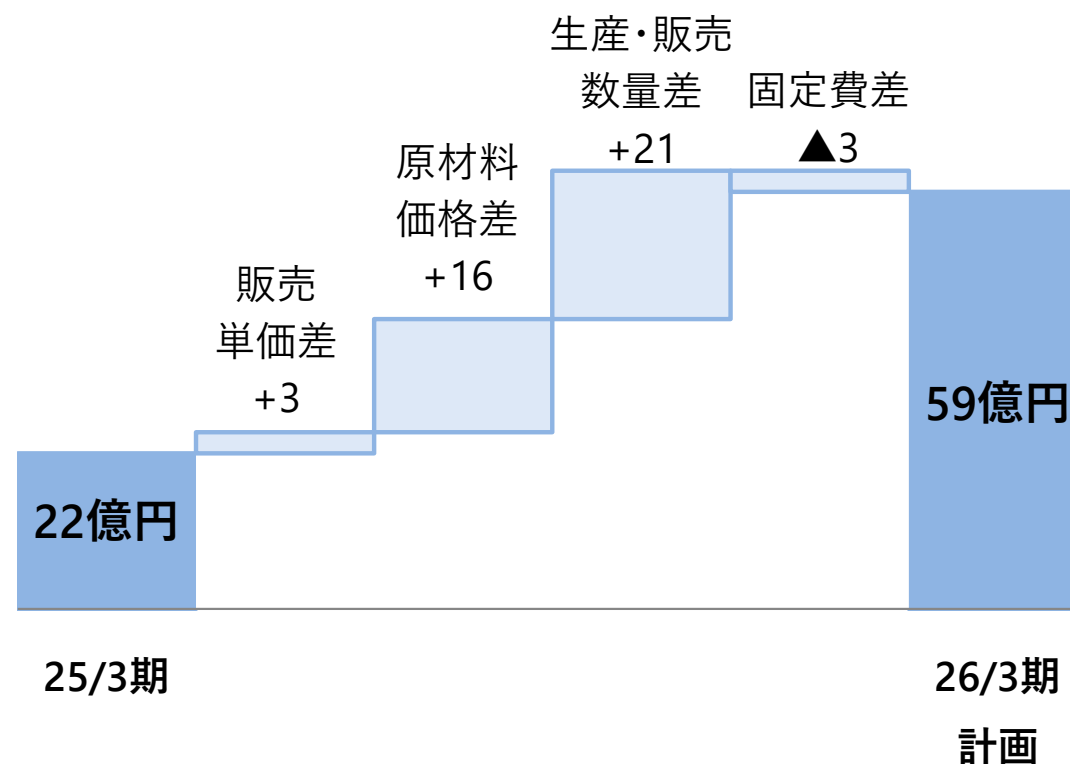
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比 +44億円）

クロール・アルカリ	+16
エピクロルヒドリン	+28

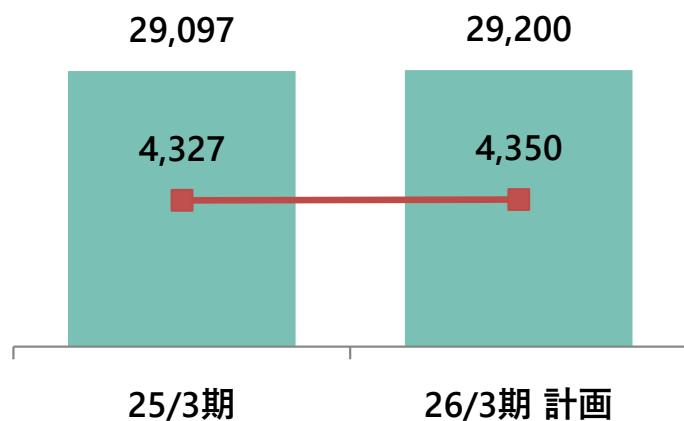
営業利益要因（億円）



セグメント（機能化学品）

- 合成ゴムは、自動車生産の緩やかな回復を見込む、前期にデボトル増強を実施したアクリルゴム設備能力を活用し、国内外で新規採用の獲得を図る
- 合成樹脂は、欧米・アジア市場での拡販によりUVオフセットインキ向けのシェアを拡大
- アリルエーテル類は、市況変動に対応した柔軟な販売戦略によりシェアを維持・拡大

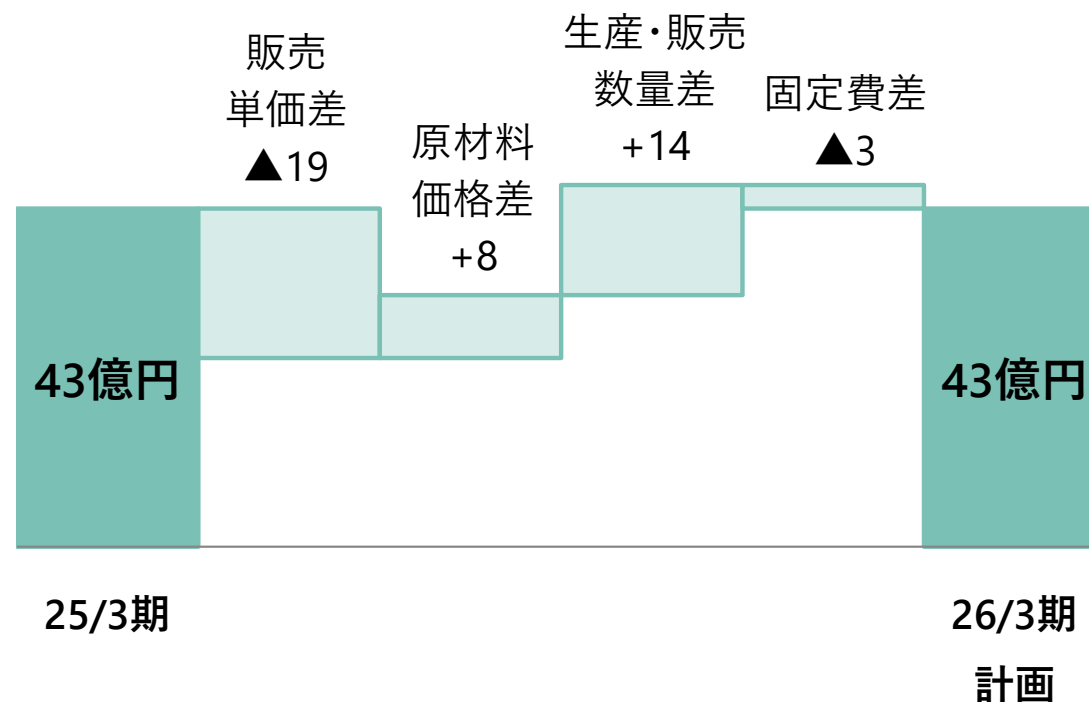
売上高 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比 +1億円）

合成ゴム・合成樹脂	+8
アリルエーテル類	▲1
その他	▲6

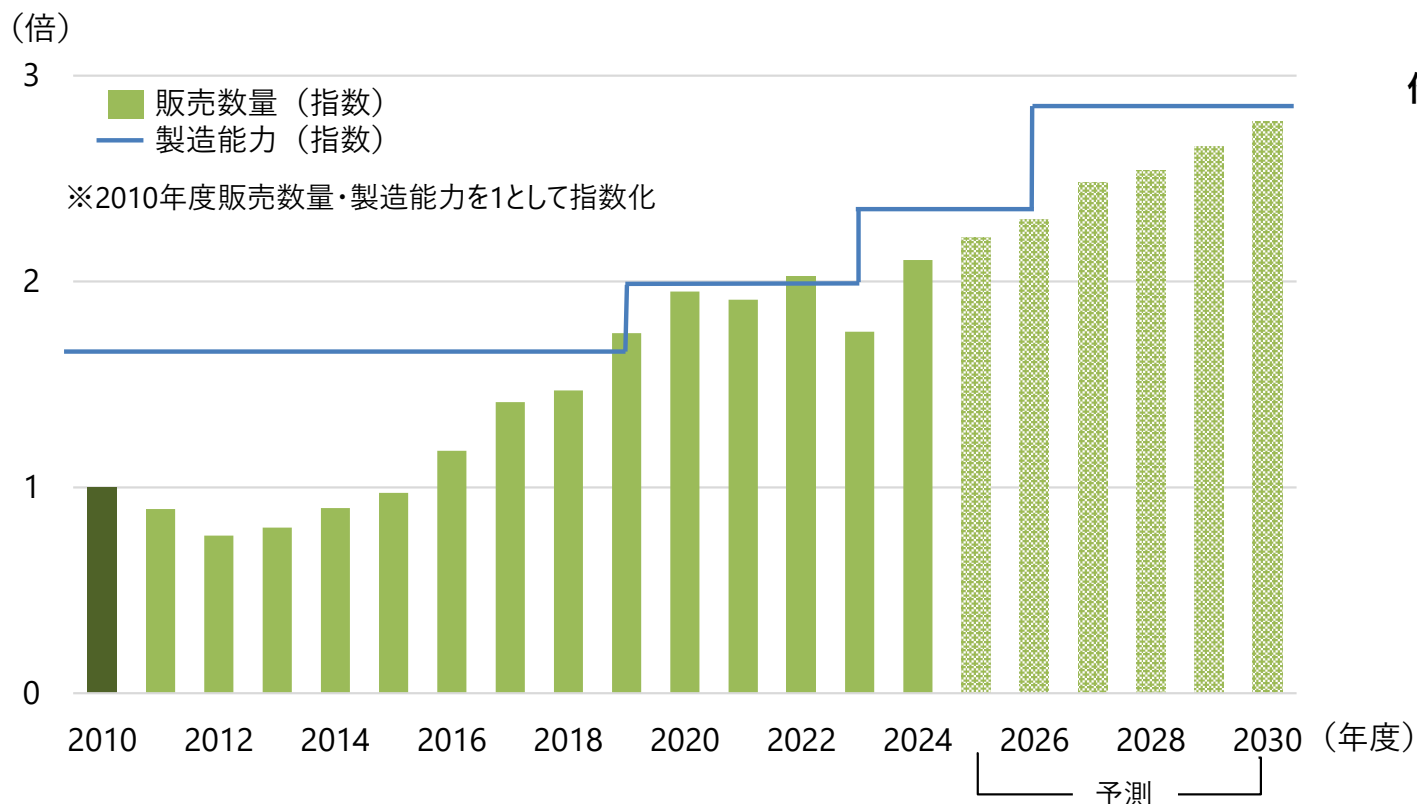
営業利益要因（億円）



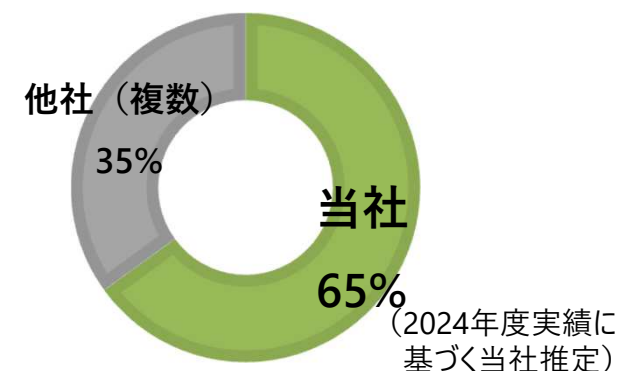
トピックス：アリルエーテル類の増強

- 主力グレードのアリルグリシジルエーテルは、エポキシ系シランカップリング剤の原料に使用
- 需要は、年率3～4%で安定的に成長すると予測
- 2025年10月、アリルエーテル類の増強を決定（2027年3月完成予定、現有能力の約1.2倍）
- 2025年12月、アリルエーテル類の出荷設備の能力増強工事が完了（現有能力の約2倍）

販売数量と製造能力の推移

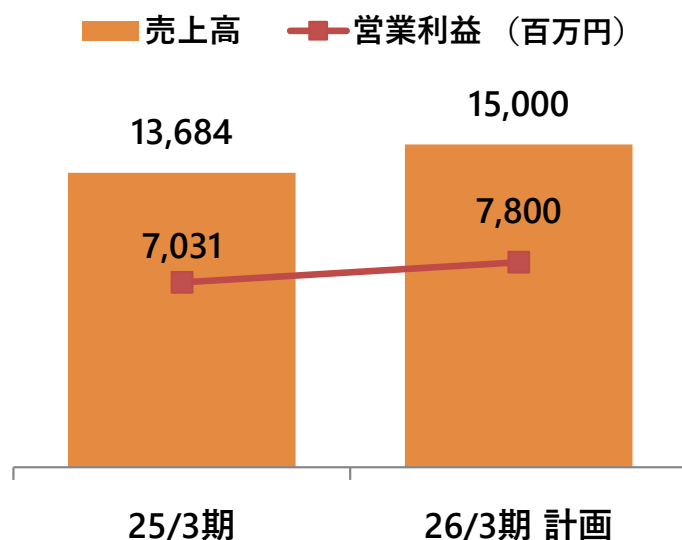


アリルエーテル類のシェア



セグメント（ヘルスケア）

- クロマトは、糖尿病治療薬ならびに肥満治療薬向けの需要が引き続き拡大、バイオシミラー向けに拡販を推進
- 松山工場と尼崎工場2期増強による収益貢献を年明け以降に織り込む
- 医薬品原薬・中間体は、本年7月にGMP対応のバイオ医薬品専用槽を設置、新規受託案件の獲得にも注力

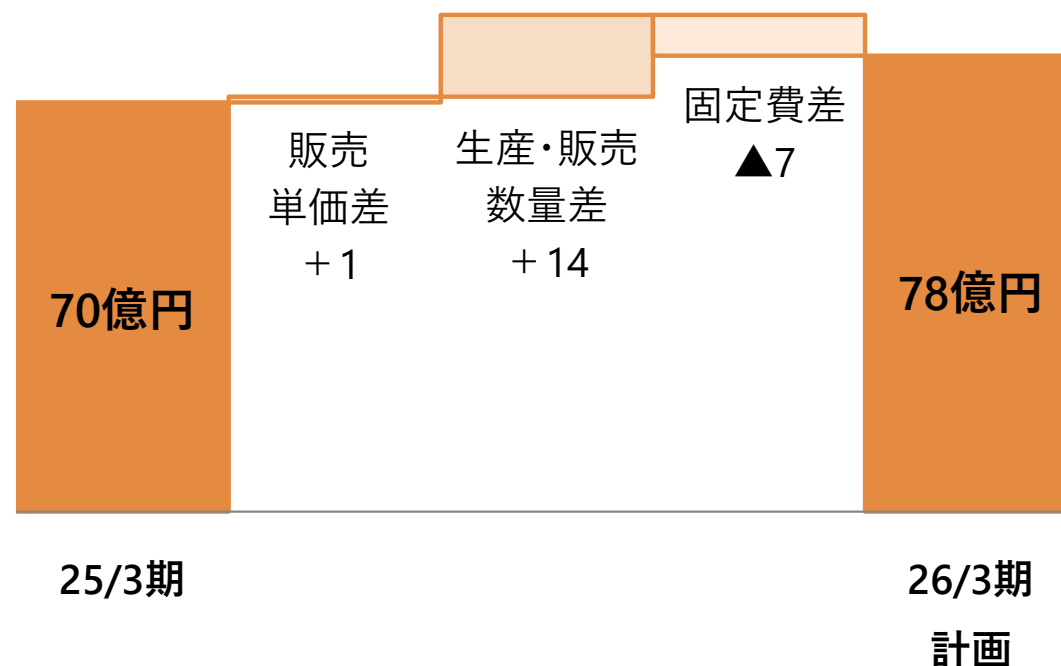


売上高増減（前期比 +13億円）

クロマト＊	+13
医薬品原薬・中間体	±0

＊ 医薬品精製材料、カラム・装置等分析機器

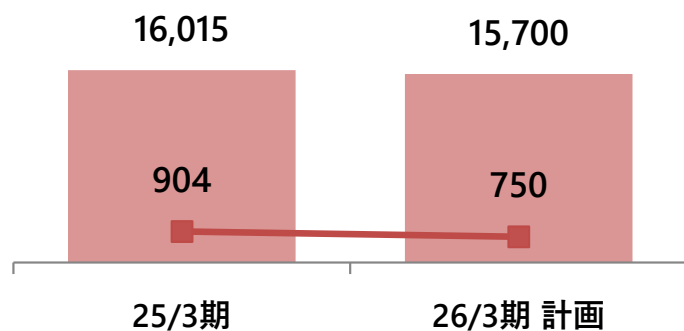
営業利益要因（億円）



セグメント（商社部門ほか）

- コンシューマープロダクツでは、企画商品の販売増や半固体電池の販売を織り込む
- 機能製品では、ガラス繊維等で電子材料関連を中心とした堅調な需要を見込む
- 基礎化学製品は、無機薬品の販売が低調に推移すると想定

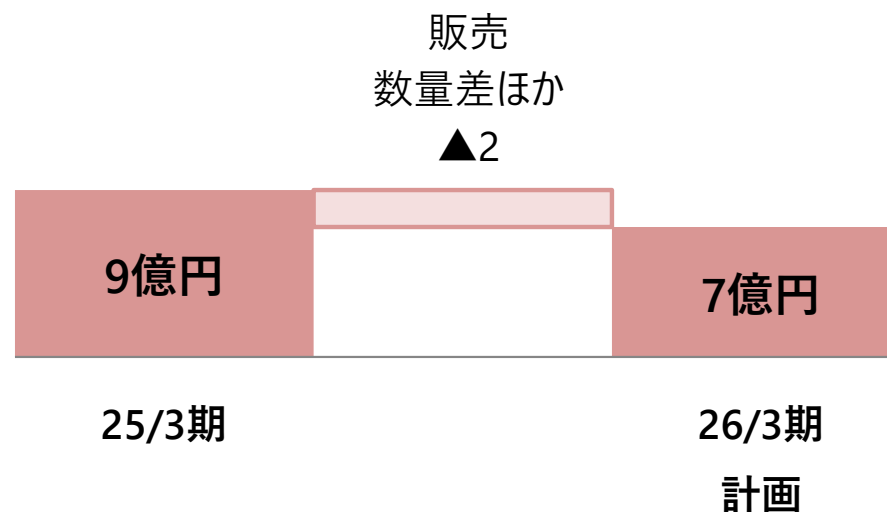
売上高 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比 ▲3億円）

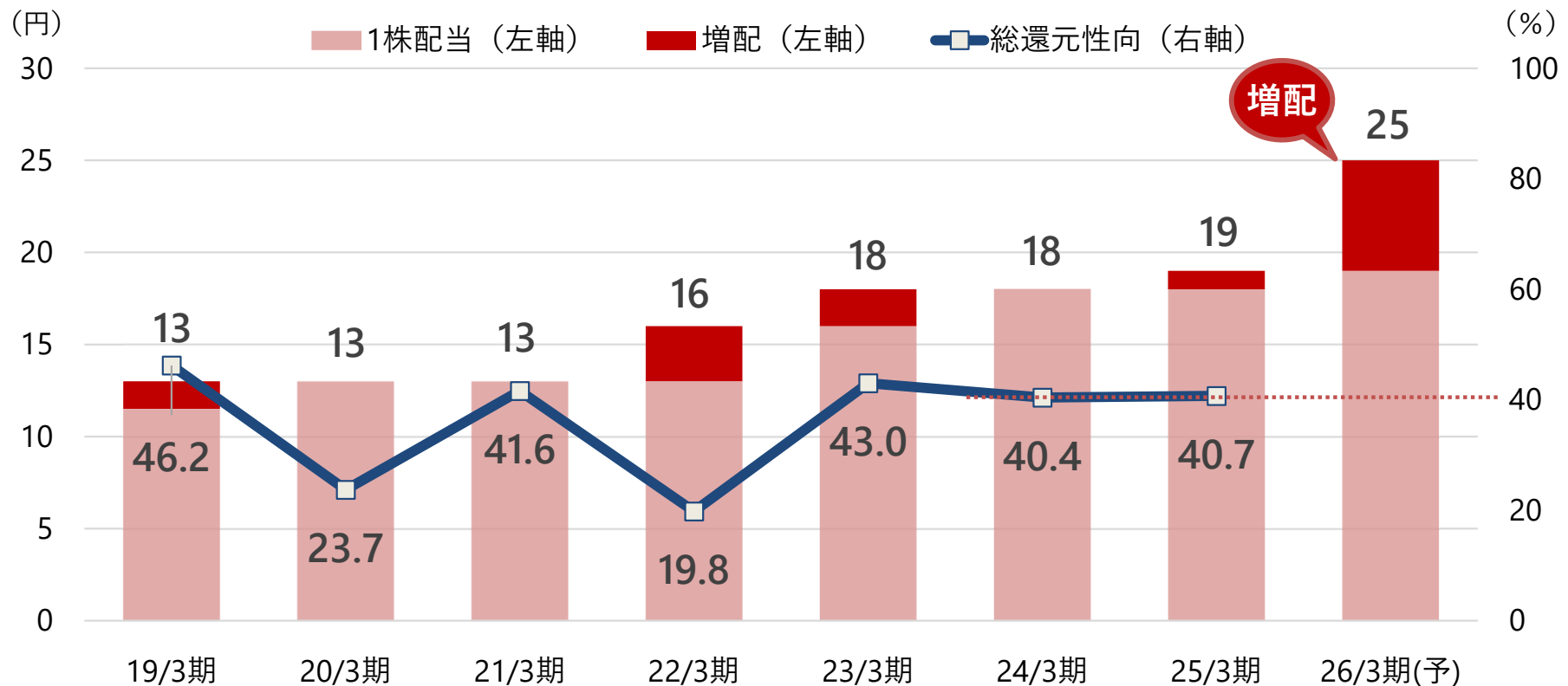
生活用品	+7
機能製品	+3
特殊ポリマー	▲3
基礎化学製品ほか	▲10

営業利益要因（億円）



株主還元

- 通期業績の上方修正を踏まえ、2026年3月期の配当を当初予想から5円増配。前期比で+6円、年間配当は25円へ
- 株主還元強化の観点から、11月7日に新たに50億円の自己株式取得を決定。8月に実施した10億円と合わせ総額は60億円となり、今期の総還元性向は40%を大幅に上回る見込み



自己株式取得額	16億円	-	10億円	-	22億円	8億円	18億円	60億円*
---------	------	---	------	---	------	-----	------	-------

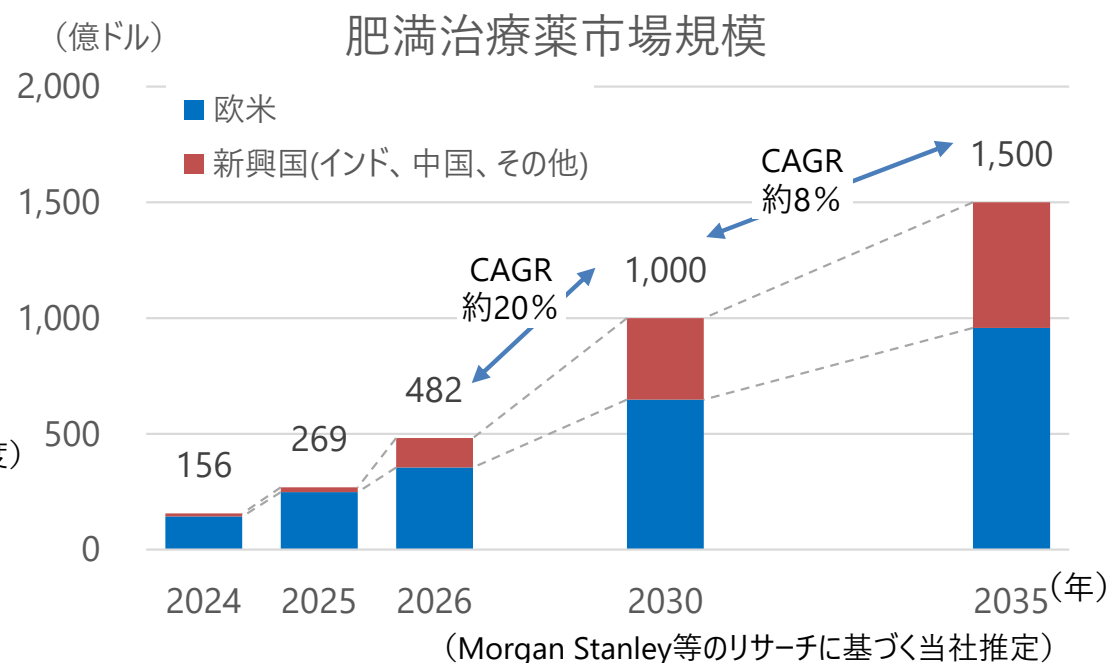
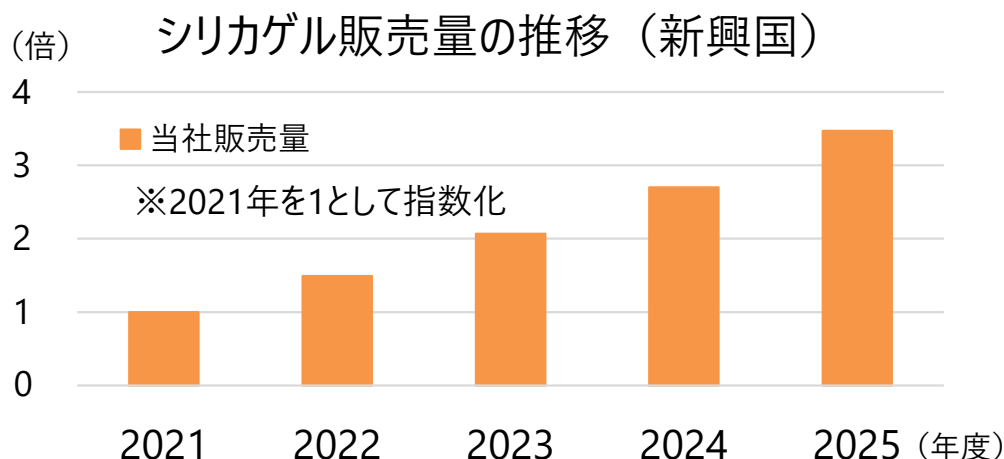
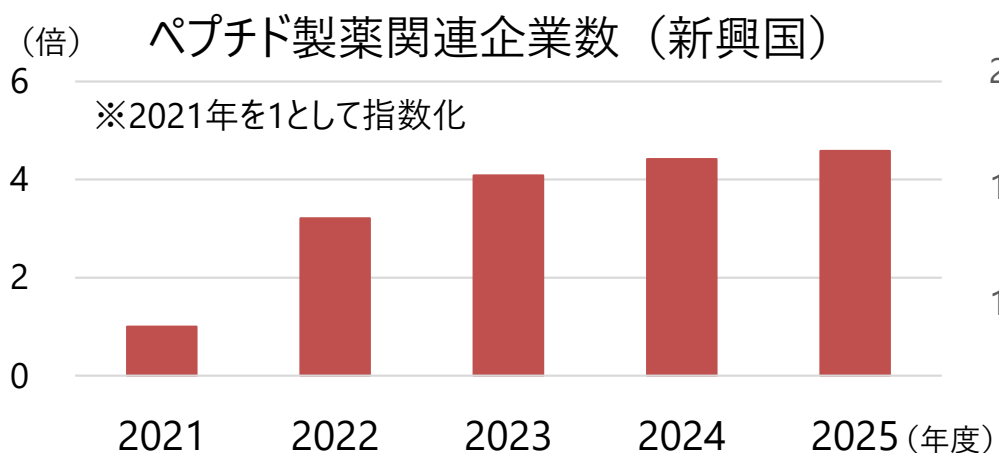
* 2025年11月7日に決定した、取得期間2025年11月10日～2026年1月30日、取得価額50億円を上限とする自己株式の取得予定額を含んでいます。
 ※当社は、2024年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っています。2018年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金（年間）を算出しています。



シリカゲル事業の拡大に向けて

新興国市場需要の囲い込みに向けて

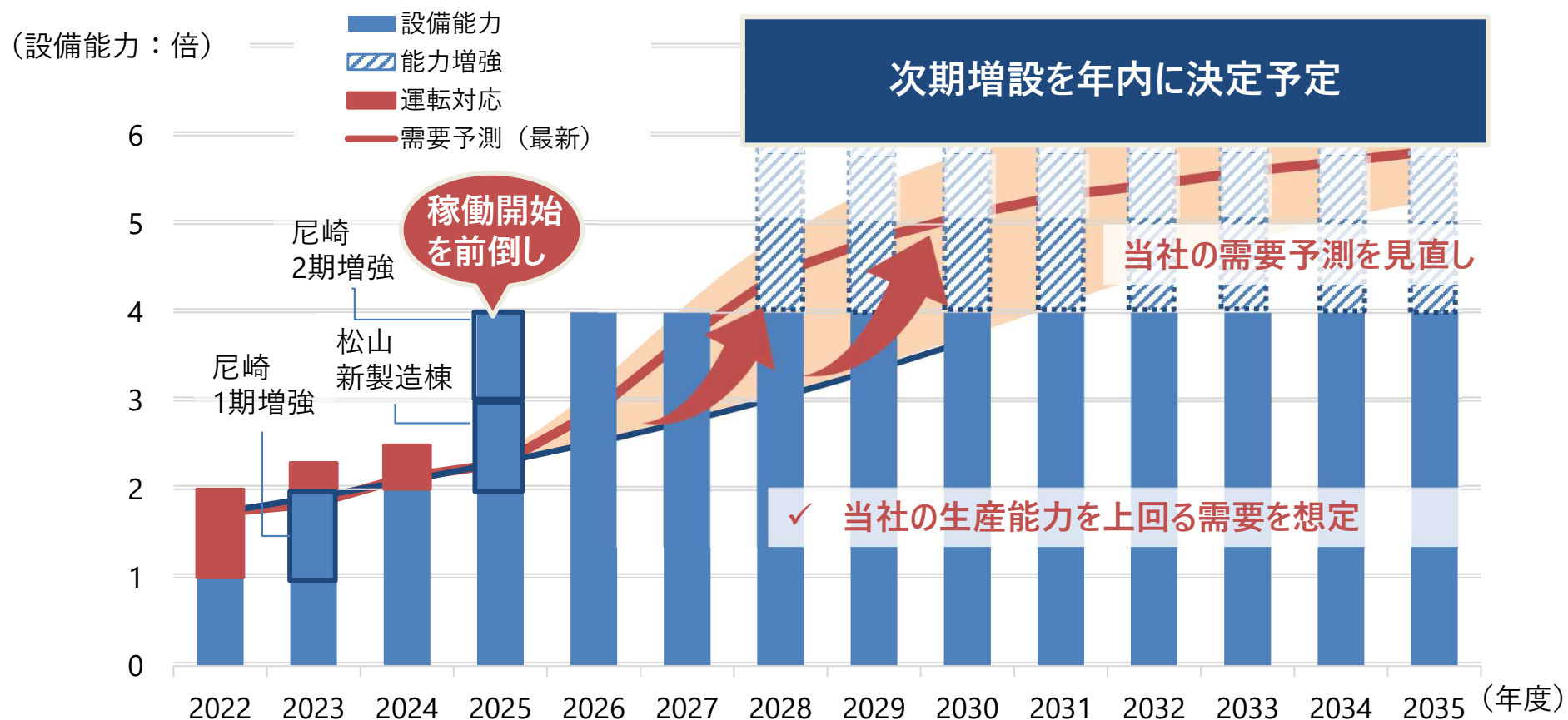
- 2022年以降、新興国市場においてペプチド製薬関連企業が急増、5年間で約4.5倍に
- 中分子医薬品市場の拡大および肥満治療薬市場の立ち上がり企業が企業参入を後押し
- 当社はインド・中国をターゲットに現地での営業活動を強化、約7割の企業で採用を獲得
- 肥満治療薬の旺盛な需要を取り込むため潜在顧客へ網羅的にアプローチ



シリカゲルの増強計画と需要動向

- 需要の拡大を受けて、松山および尼崎工場第2期増強は、前倒しで稼働を開始
- 肥満治療薬の特許切れにより、中国・インドの後発参入が加速
- 2028年には、現有の製造能力を上回る需要を想定、年内に次期増設計画を決定予定

当社の設備能力とシリカゲルの需要予測



アドメ ADMEゲルの開発

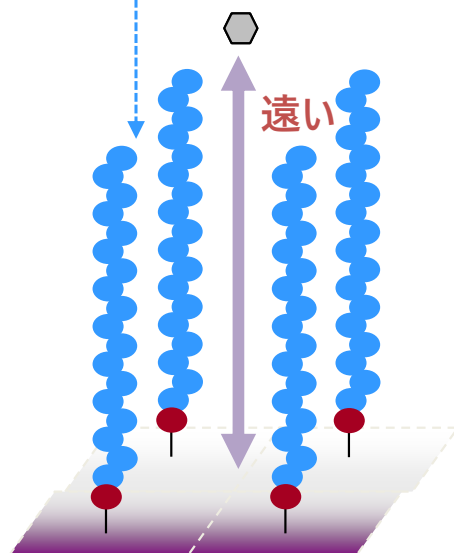
- 新たな医薬品精製グレードとして当社独自の修飾基を持つADMEゲルを開発
- 疎水性と親水性の両面を持ち、従来の修飾基にはない特異な分離性能を発揮
- 今後市場拡大が期待される核酸医薬などへの適用が期待される
- 採用に向けてグローバルにサンプルワークを開始

汎用修飾基の
オクタデシル基
(側鎖状構造のC18基)

ODS基
(疎水性)

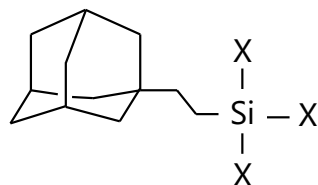
分離対象物

遠い



シリカ表面
(親水性)

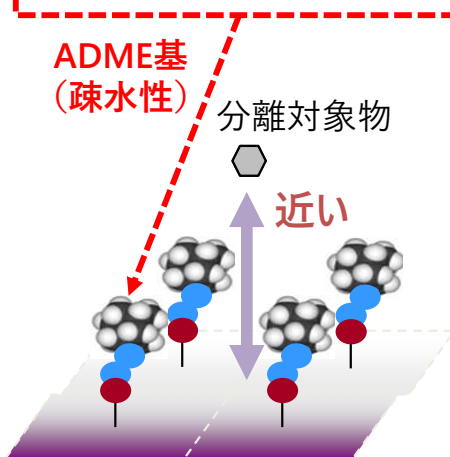
アダマンチルエチル基
(かご型構造のC12基)



ADME基
(疎水性)

分離対象物

近い

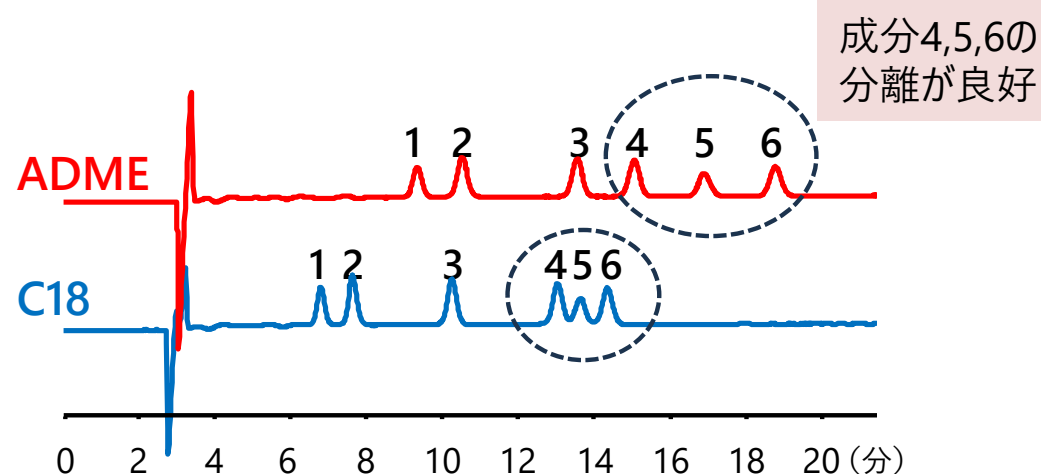


シリカ表面
(親水性)

ADMEゲルの特徴

- 疎水性を持ちながらも、親水性のあるシリカ表面に距離が近い構造
- 親水性の高い核酸塩基との親和性から従来の修飾基で分離できなかった物質を分離可能

C18グレードとの分離性能比較





お問合せ先： 株式会社 大阪ソーダ
経営企画部 広報グループ
TEL：06-7733-1005

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。